

一物の見方、考え方— 経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

1. まえがき

最近のテレビや新聞上で食品の偽装や隠蔽等のニュースや記事に接しないことは無い毎日である。

どうも、日本人社会全体で道徳心も倫理観もない時代になってきた感がある。

特に、今大問題になっている米の安全の場合、「事故米」か「汚染米」かでその対応が異なるということメディアも消費者もしっかりとらえてない感がある。

それは、事故（思いがけず起った悪いできごと、又は支障）と汚染（細菌、有害物質、放射性物質などによって、よごされること）という言葉の持つ意味のちがいで、その対応の仕方に違いが生じるということである。今回の場合は、

殺虫剤「アセタミプリド」に汚染された米、殺虫剤「メタミドホス」に汚染された米、あるいは最も発ガン性の高いといわれる「アフラトキシン B₁」というカビが発生した米が見つかったのである。

食の安全を第一に考えた場合、これは明らかに「汚染米」であり、「事故米」とはいえないと思われる。

「食の安全」は行政的には、厚生省が「食品の安全性の基準などを策定。製造施設の衛生管理などを指導」し、傘下に「検疫所」をもち輸入時に食品の安全性の検査を行う。農水省は「食品の表示基準などをつくり、不適切な表示を調査、食品業界の指導、検査」し、傘下に「植物防疫所」、「動物検疫所」をもち輸入時に伝染病や有害虫を調べ、国内の家畜や農産物への感染を防止などを行う。内閣府は「消費者行政を担当」、傘下に「食品安全委員会」がある。新しく消費者の為の「消費者庁」が設置されたが、この縦割りでは問題の解決はむづかしいと思われる。

著者：広島大学生物生産学部講師
元近畿大学産業理工学部客員教授
日本禅画家協会名誉理事
中国少林書画院名誉教授
法号位 法印 禅画位 奥伝
青木伸雄
(野風生)
雅号 樹泉

再発防止策は「発生元となった輸入米の検査を強化する」ことが第一である。

「汚染米」を防げず輸入したことが問題である。計画的取引を複雑にし露見を防ぐ悪知恵の経営者、管理者に対し、「古今無二路」の仏教の教えをいいたい。「古今無二路」とは（古今に二路なし）と読む、その大意は「時代がどのように変化しても、昔から今までに二路、いわゆる二つの道はなく、ただ一筋の道、いわゆる一つの生き方、正道しかない。如何にそのやり方は異なっても賢者の行く道、生き方は今も昔もただ一つだ」という教えである。

そこで「無学」を知り「一雨所潤」を学び、「八正道」を知って経営に生かしていただきたいために、以下述べることにする。ホイッスル・ブロー（内部告発）の時代には、「正道」しか存在しないのである。

2. 無学を知る

一般にいう無学とは、学問や知識のないことであるが、仏教用語では非学、非無学といわれる、

仏教でいう無学はすでに学をきわめ、もはや学ぶべきものを残していない境地、または聖者をさし、阿羅漢果のことで無学位、無学果、無学道のことをいう。

それは、小乗仏教（一般には、衆生済度を忘れて自己の解脱だけを求める声聞や縁覚の立場を、大乘仏教の立場から批判的に名づけたもの。）において、仏弟子たちの到達する最高の階位である。

仏教の世界観の三界（欲界、色界、無色界の生死流転する迷いの世界。）の一切の煩惱を断じ尽くした位を阿羅漢果、無学者といっている。

したがって、本来の仏教を学んでいる人間としては、気軽に私は無学ですとはいえないのである。

まして、無学の本当の意味を知らないとすれば全く論外である。

小乗仏教の四果（悟りの4段階をさす。）について述べると

1) 預流果（須陀洹果）

声聞の修行で初めて聖者の数にはいる初果をいう。

2) 一来果（斯陀含果）

もう一度だけ、生まれかわってさとりものという成果に達している者。

3) 不還果（阿那含果）

もう迷いの世界へもどってこないという不還という成果に達している者。

一般に以上、三果を有学といっている。

4) 阿羅漢果

声聞（仏の説法を聞いて悟る人、仏弟子。）の四果の